

**B-1 単元指導計画**

〈単元指導計画〉

単元名 14 変わり方調べ

(総時数7時間)

第4学年

目標	①身の回りから伴って変わる二つの数量を見出し、式で表す。 ②伴って変わる二つの数量の関係を式で表して、簡潔に表す。 ③伴って変わる二つの数量の関係を、表で表したり、図で表したり。 ④伴って変わる二つの数量の関係を表で表したり、図で表したり。
----	---

**目標**  
 目標を学習内容に即してとらえなおし、この単元では、どんなことができるようになり、わかり、どのような思考力を伸ばせばよいかを明らかにした。

**単元の評価規準**

次	小単元名及び目標	主な学習活動	①算数への関心・意欲・態度	②数学的な考え方	③数量や図形についての表現・処理	④数量や図形についての知識・理解	用語	指導形態	問題解決型学習	習得型学習	問題演習
	レディネス		乗法九九のきまり（乗数と積の関係）を理解しているか。 数量の関係を言葉の式を用いて表すことができるか。 □を用いた加減の式から、□にあてはまる数を求めることができるか。 未知数を□として、数量の関係を式で表すことができるか。 対応する値を表にあらわすことができるか。								
	○ 既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>□を用いた加減の式から、□にあてはまる数を求める。</li> <li>未知数を□として、数量の関係を式で表す。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>□を用いた加減の式から、□にあてはまる数を求めることができる。</li> </ul>					○
一 (4時間)	変わり方調べ 伴って変わる二つの数量の関係（和が一定）を考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「正六角形で裏返したらシールはどこに」の関係について、表にまとめたり、式で表したりして調べる。（4の3教室）</li> <li>「表裏の時計盤の針がさす時刻の数」の関係について、表にまとめたり、式で表したりして調べる。（フレンドリー教室）</li> <li>「正八角形で裏返したらシールはどこに」の関係について、表にまとめたり、式で表したりして調べる。（4の1教室）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴って変わる二つの数量の関係を調べようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴って変わる二つの数量の関係について、対応する二つの量から変化</li> </ul>							

**レディネス**  
この単元を指導するために必要なレディネスを明らかにした。

**レディネステストをふまえた補充指導**  
レディネステストの分析の結果、□などの記号を使って式を立てる力が十分ではないと思われた。単元の初めに□などの記号を使った式をつくる学習を1時間取り入れ、授業に望むことにした。

**課題の工夫**  
クラスの実態を考えて、同じ評価規準で3種類の課題に取り組んだ。

**B-1 単元指導計画**

<p>伴って変わる二つの数量の関係（和が一定）を表に表したり、□や○を用いて式に表したりして、その関係を考察することができる。</p>	<p>・関係をついて表にまとめたり、</p>	<p>・伴って変わる二つの数量の関係を、表に表したり、□や○を用いて式に表したりして、簡潔に表現することができる。</p>	<p>・伴って変わる二つの数量の関係を、表に表したり、□や○を用いて式に表したりするしかたを理解している。</p>	<p>習熟度別少人数</p>	<p>○</p>
<p>伴って変わる二つの数量の関係（差が一定）を表に表したり、□や○を用いて式に表したりして、その関係を考察することができる。</p>	<p>・1辺が1cmの正三角形を1列に組み合わせていくときの三角形の個数と周りの長さの関係を表にまとめたり、式に表したりして調べる。</p>	<p>・伴って変わる</p>	<p>・伴って変わる</p>	<p>習熟</p>	<p>○</p>
<p>二時間 ○伴って変わる二つの数量の関係（商が一定）を表に表したり、□や○を用いて式に表したりして、その関係を考察することができる。</p>	<p>・1辺が1cmの正方形を1列に並べたときの段の数と周りの長さの関係を表にまとめたり、式に表したりして調べる。</p>	<p>□や○を用いて、式に表して簡潔に表現しようとする。</p>	<p>したり、□や○を用いて式に表したりするしかたを理解している。</p>	<p>人数</p>	<p>○</p>
<p>形造的テスト</p>	<p><b>本体の授業</b> 評価規程はもとより、前単元までのレディネス・単元で指導しなければいけない用語・指導方法としての考える力を育成する学習・習得型学習・問題演習なども記入した。授業では、情動的なゆさぶりや知的なゆさぶりをし、おもしろそう、やってみようというような導入の工夫をしたり、どうしてもいれておきたい体験活動をさせたり、考える力を育成する授業をしたり、ここは教え込まなければいけないときは、習得型学習として教え込んだり、ドリルや習熟の時間を設けたりして、1時間単位で考えるのではなく単元全体で指導を行った。</p>				
<p>補充と発展</p>	<p>補充 形造的テストでできなかった問題を中心に直したり、補充問題に取り組み</p> <p>発展 発展問題に挑戦する。</p>	<p><b>補充と発展</b> 誤答分析を生かして、理解が不足している児童には、補充指導を、十分理解している児童には発展の指導を行う。</p>			